SHINY PERSON

キラリな人

厳しい状況に置かれている子どもの成長を手助けしたい

日本では6人に1人の子どもが貧困状態にあるといわれている。そんな中、学校教育学部4年の多田実乗さんは「兵庫子ども支援団体」を仲間と立ち上げ、経済的・家庭的に厳しい状況に置かれている子どもたちへの学習支援や虐待防止支援、小児がん・難病支援などを展開してきた。その活動が評価され、昨年11月に第10回よみうり子育て応援団大賞奨励賞を受賞。社会的に認められたことで、「活動はもはや自分たちだけのものではない」と、NPOの法人格も取得した。

最初の一歩は高校1年生の時。友人や生徒会を巻き込み、児童虐待防止推進月間の11月に街頭で啓発活動を行った。「何かやりたいなと考えた時に、中学校でオレンジリボンをもらったことを思い出して」と軽い気持ちで始めたという活動は、翌年も、その翌年も続けた。そして3年生の秋、卒業後も子どもたちのためになることをしたいと、共に兵教大に進学した言語系コース4年の横山和可さん、今は別の大学で同じく教員を目指している同級生と3人で設立したのが同団体だ。

大学に入学後の1年間は他のNPO法人で運営ノウハウを学び、2年生の5月に明石市内の公共施設の一室を借りて学習支援事業を開始した。低所得世帯や一人親家庭、多子世帯などの小中学生に対し、週1回、大学生や社会人のチューターがボランティアで学習指導をするというもので、昨年には加東市内でも教室を開いた。

参加者は口コミなどで徐々に増え、現在は明石18人、加東9人が登録している。参加費はひと月600円を上限とし、小学生には自分たちで作ったテキストも用意。学習中は雑談を交えたりグループワークを組み込んだりして子どもたちが飽きないよう工夫し、勉強の習慣化には保護者の協力も不可欠と、学習記録ノートを使ってコミュニケーションを取っている。

「子どもたちに身に付けてもらいたい力を育むために、やりたいことはたくさんあります」と話す自身の将来の夢は、小学校の教員。「学習支援を通じて、子どもがどこにつまずくのか分かってきました。それらを実際の授業でもフォローできるよう、しっかり教材研究をしていきたいです」

多田実乗（ただ みのり）さん

学校教育学部
自然系コース4年

平成7（1995）年、明石市生まれ。県立明石北高校在学中の23年11月に仲間と「兵庫子ども支援団体」を設立し、27年5月に小学4年生から中学3年生までを対象にした学習支援事業（学習支援「かがやき」）を開始。立ち上げ当初から代表を務める同団体は昨年、第10回よみうり子育て応援団大賞奨励賞を学生団体では初めて受賞した。

兵庫子ども支援団体ホームページ
▶http://hpcso.com/

「明石かがやき」での学習支援の様子